



# 優 秀 賞

設計部門



## 安満遺跡公園

### 株式会社空間創研

家本智・荘田隆久・多田祥子・立花正充(故人)

### 株式会社地球号

岸田敏・和田威・上田仁

### 株式会社オオバ

上田哲生・村松雄一郎

### 中央コンサルタンツ株式会社

山本和光・柴田誠司・長崎浩紀

### 株式会社 INA 新建築研究所

北伸一郎・村井俊彦・谷口桃子

安満遺跡公園は、高槻市の都心にある JR 京都線と阪急京都線に挟まれた、旧京都大学農学部附属農場を含む約 22ha の総合公園である。その内の約 14ha は、弥生時代の居住域・生産域・墓域が確認され、北部九州の弥生文化がいち早く近畿に伝わったことが証明された学術上非常に価値の高い集落遺跡として、国史跡安満遺跡に指定されている。

### 市民と育て続ける公園

史跡指定地は文化庁の助成制度を活用した史跡公園、史跡指定地外の約 8ha は UR 都市機構の防災公園街区整備事業を活用した防災公園として、2つの事業が一体となった市の新たな

### 作品概要

作品名 安満遺跡公園  
 所在地 大阪府高槻市八丁畷町  
 発注 高槻市・UR都市機構西日本支社  
 設計 株式会社空間創研:整備構想・史跡事業エリア基本設計  
 株式会社地球号:史跡事業エリア実施設計  
 株式会社オオバ:防災公園事業エリア基本設計  
 中央コンサルタンツ株式会社:防災公園事業エリア実施設計  
 株式会社 INA新建築研究所:防災公園事業エリア建築設計  
 設計協力:株式会社LEM空間工房(照明デザイン)  
 安満人倶楽部(施工)  
 監理 高槻市・UR都市機構西日本支社・株式会社INA新建築研究所  
 施工 株式会社富士グリーンテック(史跡事業エリア)、  
 大日本永商永大JV(防災公園事業エリア)、大鉄工業株式会社  
 設計期間 2012年11月~2018年3月  
 施工期間 2016年7月~2021年3月  
 規模 約22ha  
 主要施設 史跡事業エリア:遺構表現・ガイダンスサイン、農場建物群(展示室、  
 休憩室、レストラン、展示館、歴史体験室、多目的スペース、市民活動  
 支援スペース兼倉庫)、水田、原っぱ 他  
 防災公園事業エリア:パークセンター(公園事務所、市民活動拠点、  
 子どもの遊び施設、多目的室)、屋根付き広場、芝生広場、せせらぎ、  
 駐車場、商業施設(4店舗)、防災倉庫、市民活動倉庫 他

### 作品評

本作品は、弥生時代の安満遺跡とその上に展開されていた旧京大農場跡地(建物は国登録有形文化財)の保全活用と、防災公園という異なる目的を融合させ、それぞれの歴史性や必要となる機能を確保しつつ、全体として広大な公園として活用したものである。  
 市民と共に育てつづける公園づくりを目指したワークショップや各種イベントの開催と運営、異なる実施設計者をまとめて全体を一体的に仕上げたことなど、丁寧なアプローチと技術的な裏打ちに基づいた、しっかりとした仕事と成果が大きく評価された。  
 民間事業者の積極的な導入や、ネーミングライツ・寄付の募集など、経営的視点からの公園づくりにも挑戦しており、こうした大規模公園整備の今後の手本となるものと考えられる。選考委員会では、こうした確かな技術がいかに発揮されたことに評価が集まり、優秀賞となった。

設計部門



①明るく開かれたメインエントランスと歴史資産空間の居住域に向かうピスタ状のみち広場 ②環濠表現と鳥居による居住域の入口 ③多くの利用が見られるパークセンター前の人工芝広場 ④市民活動によるマルシェイベント ⑤市民活動による生産域での古代米栽培と弥生時代から変わらない山並みの景観

シンボルとなる公園として計画した。「安満遺跡公園整備構想」は、当初から学識者経験者・市民等多様な参画のもと、「市民とともに育てつづける公園」を理念に計画した。

### 弥生時代から変わらない景観を生かした施設配置

中心市街地に近い西側の都市的空間、史跡指定地を含む中央・東側の歴史資産空間に分け、メインエントランスからのピスタを活かすとともに、弥生時代から変わらない景観として安満山への眺望などの見通しを確保した施設配置とし、周辺の街並や鉄道の車窓からも大きなインパクトを与える新たな修景景観、環境を創出した。

### にぎわいや市民活動を支えるしかけ

都市的空間は、本公園の中心となるパークセンターを計画し、公園事務所や市民活動拠点、民間事業者による「こどもの遊び施設」、屋根付き広場等を配置した。

歴史資産空間は、当時の遺構を保存しつつ地形を再現し、米園者が直接触れることをテーマに、居住域の環濠を人工芝の土塁と白砂利で表現し、これらを浮かび上がらせる照明演出とした。長年、市民に親しまれてきた農場建物群(国登録有形文化財)は、これを最大限に活かすことを重視し、レストランや歴史展示館、体験館等にリノベーションし、史跡指定地での多様な利用を創出するように工夫した。